

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本は法人の4つの理念。 グループホーム独自の理念があり、その人らしさを大切にし、出来る事探しをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各個人の出来る事・出来ない事を知り、個別ケアの実践を行なっている。 理念に基づいた目標を、部・事業所・各職員が設定し、実践している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に理念を掲示している。運営推進会議の開催にて情報提供している。 週4回の買い物や通院に利用者と一緒に出かける。 「扉」「グループホーム便り」など広報誌の発行、配布を行なっている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接する養護老人ホームの利用者が気軽に立ち寄っている。保育園との交流もあり。 近所の方より野菜のおすそ分けを頂いている。散歩の際の挨拶の励行。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2月のひばりロードマラソンの応援参加。 大刀洗ドリーム祭りや花火大会への参加など地域行事に参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年1回の大刀洗ドリーム祭りへの作品出展。地域のミニデイに参加し悪徳商法・認知症介護・転倒防止などの講話や劇に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、スタッフ各自が項目の取り組みの確認をし、その後全員が点検している。 評価後の結果については、改善項目を中心に再度点検をし直している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議の開催。会議記録はファイリングしている。 会議内容については、月1回のグループホーム会議にて報告している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の定期的な受け入れを行なう。 市町村への「扉」配布。グループホームの活動内容を掲載している。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議にて成年後見制度について研修を実施し、いつも職員は対応できるようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三井小郡医師会研修会にて虐待についての研修会に参加する。その研修報告をグループホーム会議にて報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、管理者が十分に説明を行なっている。 退所・解約になる際は、利用者・家族の思いを聞き、十分に話し合い説明している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員が訪問し、利用者 とゆっくり話す時間がある。 年1度、「扉」に苦情内容公表。苦情受付 簿をもとに改善し、ケアに反映している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	1回/2ヶ月GH便りを作成し配布してい る。定期受診時、状態報告。変化時は電話 連絡。 面会時に状態報告、金銭出納帳の報告。 行事への家族参加の呼びかけ。 移動の職員は、面会時など、家族への挨拶 を行なっている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会実施。旅行や行事などに家 族の参加を促し、意見を出せる場をつくっ ている。 玄関に御意見箱を設置。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員会議やグループホーム会議等の場で運 営者とじっくり話す機会がある。 行事やイベントの企画などの提案につい て、決裁までの意見交換の場がある。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	4. 0体制で、急な通院や面会時の家族対 応もできる。 早出・遅出など、必要な時間帯に必要な職 員数を確保している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は法人施設間で行なわれており 施設間で行事以外でも日常的に交流が実施 されている。職員と利用者のなじみの関係 は保持されるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、広く学校法人、ハローワークなどを利用し、応募者の保有資格、健康状況を把握すると共に、職務に対する熱意、姿勢を参考にしている。また、職員自身のやる気を尊重している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権・同和問題等について職員会議にて議題として取り上げ、周知徹底している。大刀洗町で行なわれている12月4日からの人権週間の際の講話などを受講している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修の計画がある。月1回の職員会議の開催と、研修や勉強会への参加の機会があり。会議の際に報告があり周知徹底している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三井・小郡医師会主催の勉強会への参加。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会による旅行やスポーツ大会の実施。 年2回、運営者とじっくり話す機会がある。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な健康診断の実施。 就業規則に基づいた勤務状況。 上司との面談の実施。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学の際、十分に話をする機会をつくっている。 当グループホームの特色を伝え、許す限りの時間で相談に乗っている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	十分に話をし、家族の思いを聞く。 施設だけでなく、自宅での面接の時間も設ける。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所だけでなく、通所や他のサービス利用についても考慮し、提案している。 情報を入手し、ケアマネとして、最も適したサービスは何かを提案する。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学においては、時間などの制約をせず、自由に見学していただく。見学の中で、職員や他の利用者に関わる機会を設ける。	○	体験入所、体験利用。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る事を見極め、生活の中で発揮している。調理や掃除、娯楽においても、協力し合いながら生活を営む日常が構築されている。 お互い様という感謝しあう関係が築けている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの説明の際、利用者の日常生活の中での変化を詳しく伝え説明している。 「扉」や「グループホーム便り」による近況報告。 家族会や旅行などで職員と家族が理解し合う機会を設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期受診以外にも面会の際、居室で過ごしたり、一緒に娯楽を楽しめるようにしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物で知人に会ったら話す時間をつくる。隣接の施設の友人を訪ねる。電話やハガキのやり取りをすすめている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	日常的に利用者同士が支えあっている。また、職員が気付かない部分を利用者同士が支え合う場面もあり。皆が揃って食事を取り、食後には利用者が集まる時間がある。利用者同士の関係や相性を考慮している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後でも、グループホームへの訪問や行事への参加があっている。サービス終了後でも、教会を通じて、利用者同士の関係が続いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に個別ケアを心がけ取り組んでいる。利用者の希望を聞いたり、思いを汲み取って、実現に努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	学習療法や各イベント、また日常生活の中でなじみの生活について聞く機会を設けている。また、それを記録に残している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	8：45からの毎朝のミーティングでの情報交換を行なっている。 各利用者の毎日の生活の記録とスタッフ間の情報の共有を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や意向を反映したプランを作成している。 利用者本位の、笑顔と自信を引き出せるプランを作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎の見直し、状況変化時の見直しを実施。また、面会時や状況変化の際には、家族への説明を行なっている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務の合間に記録入力を行なっている。 重複しないよう、記録の簡素化を図っている。ケアプランに沿った記録を実践。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケアの実践や早期退院を行なうなど、柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ。 家族からのボランティアの受け入れ。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科の利用。 病院のリハビリを利用。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員による、権利擁護の研修会などがあり、連携は充分に取れている。グループホーム会議への参加。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診。家族が不都合な場合、職員の送迎。定期受診の電話連絡。 本人の希望する病院への受診。 適切な専門医への受診を行なっている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が専門医で無い場合、適切な専門医の受診を行なう。 問題行動への対処方法などの相談実施。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、利用者の健康管理を行なっている。夜間の電話対応も可能。家族や医師との連携を図っている。同法人内の看護師との連携を行なっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は定期的な面会を行ない、早期退院に向けての連携を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去ターミナルケアの取り組みを2名実施。 家族会などで家族の意向を十分に聞き、利用者の安楽を考え、取り組んでいる。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者本人にとって、安全・安楽に暮らせる支援を心がける。臨時の会議等にてスタッフの意思統一を図っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際は、本人、家族の意向を十分に聞き、決定する。また、担当者会議での情報交換を充分に行う。	○	今後退所時のサマリーの様式を作成。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類の持ち出し禁止と保管場所の施錠。 排泄ケアの際特に注意し、小声で誘導を促したり、失禁の際のバケツ使用などの配慮を行なっている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で知り得た情報により、本人の希望実現や行動の準備を行なう。 する・しないは本人にまかせる。自己決定の場面をつくる。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活習慣や宗教を大切にしている。 入浴や就寝時間など、本人の希望に沿うように時間や行動を設定する。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの散髪屋を利用し、髪染めや散髪 時期の希望に対応する。 皆がそれぞれの好みの服を着て、清潔にし ている。 受診や外出の際の身だしなみを実施。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活か しながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員が共に食事の買い物・調理・ 片付けをし、調理担当者は一緒に食事をして いる。 行事食、誕生会食などスタイルを変えて食 事を楽しむ機会をつくっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一 人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みや体調に合わせた献立の変更。 パンとご飯、麺類などの対応。補食、間食 など。 家族からの差し入れや、嗜好に合わせた コーヒー等の提供。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援してい る	排泄パターンを知り個々に合った排泄ケア の実施。 排泄チェック表による間隔などの把握。 紙パンツやパッドなど、可能な限り外すよ うにしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援してい る	本人の希望にあわせて入浴を実施してい る。入浴を拒まれる利用者に対しては気分 のいい時などを職員同士の連携でムスに行 なっている。 希望があれば夜間入浴も対応している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡希望者への対応。 うたた寝や居眠り時の対応。 安心して睡眠をとれるよう、寝具調整・室 温調整など行なっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中に利用者それぞれの役割がある。掃除・台拭き・調理・洗濯物たたみ・手芸・趣味など。 個別ケアと集団でのケアを取り入れている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護度が軽度の方は、自己管理している。重度の方は、金庫管理し、通院や外出の際に職員と一緒に支払いを行なっている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週4回の買い物。散歩に適した時期・天気であれば、ほぼ毎日散歩を実施している。散歩や外出の希望を伺い、希望に沿うようにしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	各種バスハイク、蛍狩り、野球観戦、花火大会、宝塚観劇などの外出イベントの企画と実践。 家族との旅行。年1回の旅行実施。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけることができる。電話機の子機を使用する事で、気兼ねなく会話を楽しめるよう配慮している。残暑見舞いなどハガキを出す機会を設けている。遠方の方には写真を同封したりしている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族会やそーめん流しなどで、訪問・面会の機会を増やしている。 面会の際は希望に応じて、居室やリビング、和室などを利用していただいている。夜間の面会も対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で議題として取り上げ、身体拘束をしないケアについての研修が行なわれ職員間での周知徹底が出来ている。 日中の離床に心がけ、個別ケアを行なっている。 言葉による拘束、否定語を使わない。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しないケアを心がけ、実践している。 各自、利用者の居場所の確認と、外出や入浴など互いに声掛けし合い、人数確認を行なう。法人間でも連携が出来ている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はその日のリーダーが中心となり、各利用者の所在を把握し、夜間も定時の人員確認を行なっている。 利用者と一緒に過ごすことを心がけている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁の本数確認とチェックノート記入。 石鹸、洗剤は工夫して保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとりひとりに起こり得るリスクをケアプランに掲げ、事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハット・事故報告書はファイリングし全職員が確認する。事故発生時は全員でミーティングを行い、原因・今後の対策について話し合い周知徹底している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法のマニュアルを事務室に常備している。 グループホーム会議で研修報告。 グループホーム会議で勉強会実施。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練を実施 各居室に避難経路図を貼りだしている。 消防署への緊急通報システムあり。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活の中での気付き、リスクに繋がる事を、面会時や必要時に家族に報告・相談している。 また、家族からの希望も十分に聞いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェックと記録。 日頃からの観察と共に、利用者の体調の変化に早く気付く。 申し送りの徹底による情報共有。 家族への報告と早めの受診。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬注意事項の周知徹底。 服薬確認ノートでのチェックと記録記入。 薬の内容を事務室に掲示。 医療機関との連携、症状の伝達。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表への記録記入。 手作りヨーグルトをほぼ毎日摂取。 日中の体操レクリエーションの実施。 医師の適切な指示のもと、緩下剤の服用。 各種ゼリーなどによる水分補給実施。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施。自分で行なえる利用者は自力での口腔ケア。 義歯洗浄剤使用。 口腔体操を行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック、記録記入。 定時の水分補給に加え、各種ゼリーによる水分補給。 アセスメント表や日常生活の中での嗜好の把握。補食や間食など、ひとりひとりに合わせて十分に栄養摂取が出来るようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員会議にて、感染症予防についての勉強会あり。 手洗い・手指消毒の励行。 熱湯消毒、オスバン消毒など。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は週4回、食材を貯めすぎないようにしている。 買い物前の在庫チェック、冷蔵庫掃除。 食材の作成日や収穫日の記入。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉のオープンで、庭でのお茶や、日課の散歩や草取り等行い、入りやすい雰囲気がある。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の掃除。冷暖房の調節。季節の花や写真、書などの飾りつけ。遮光カーテンの利用。 皆が集まる楽しい雰囲気づくり。 適切な音楽がかかっている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれの落ち着ける場所を職員が把握している。居場所を強要せず本人の希望に沿うようにしている。 利用者同士の相性も考慮し、座席の位置を決定している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや写真、思い出の品が居室にある。 各居室入り口の扉付近、目の高さに表札としての名札がある。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を見て、適時冷暖房の調節を行なっている。 広くて大きな窓があり、十分な換気が行なえる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	勝手口など段差がある所は、職員の見守りや、介助を行なっている。室内は利用者の動線を十分に考え家具の配置を行なっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は、一箇所利用者の書による貼紙を行ない、わかりやすくしている。夜間はセンサーの為、少し戸を開けた状態にして電気が付くようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にくつろげる空間をつくっている。庭で茶話会を実施することもある。 畑での野菜づくりと収穫。洗濯物干しや取り込みを利用者と共に行なう。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日の生活の中で利用者の出来る事を見定め、任せられる事を増やしたり、一緒に行なうことで自信に繋げている。
- ・調理の部分でも利用者一人一人が出来るところに関わり多くの利用者の参加がある。
- ・余暇活動として趣味や手芸等に力を入れている。